



例会日：水曜日
第1・第2 夜間・18:30～
第3・第4・第5 昼間・12:30～
例会場：華月殿 和歌山市屋形町 2-10
事務局：〒640-8227 和歌山市西汀 26 経済センター 7F
TEL 073-423-3666 FAX 073-423-7200
http://www3.cypress.ne.jp/tonan-rotary.html
E-mail a-rotary@coral.cypress.ne.jp
会長 津川善昭 幹事 溝落和作
クラブ会報委員長 溝落和作 副委員長 中岡隆文



本日の例会
10月8日(水)
華月殿 18:30～

ロータリーツグ：四つのテスト
行事：クラブフォーラム
職業奉仕委員会

次回の例会
10月15日(水)
18:30～華月殿

行事：勝野ガバナー公式訪問
和歌山中 RC との合同例会

先週例会報告

ゲスト 向陽高校奨学金担当：三崎貴美先生

副会場監督 山口 幸也

会長報告

市川正夫直前会長

三崎貴美先生、本日はありがとうございます。後ほど卓話よろしくお願ひします。

本日、津川会長はハーレーの会社の行事で出張されておりますので、代理を務めさせていただきます。

さて、本クラブの来期の理事・役員の出選の時期が近づいてまいりました。クラブ細則第3条「理事および役員選挙」の第1節「選挙」に『会長は、10月の第1例会で、11月第1例会において、会長(次々年度)および次期役員・理事の候補者を選出する旨、告知する。候補者は、立候補、会員の推薦又は理事会が指定する指名委員会の指名した会員とする。』と規定されております。12月の第1例会の年次総会において、出席者の投票により決定いたしますので宜しくお願ひ致します。

次に先週の例会で予告のあった【例会に来て良かったで賞】は、神谷会員ご寄付のルーマニア直送の植木鉢です。大、中、小の3個ありますので、小さい方から順番に抽選します。三崎先生の札も入れていますので当たればいいですね。抽選の結果、(小)山本唯二さん、(中)三崎先生、(大)保田博さん当選です。おめでとうございます。



ニコニコ箱

市川君・3ヶ月ぶりに点鐘させていただきます。
溝落君・芋掘り参加、御苦労さまでした。
本人お誕生日お祝い・前田君、郷間君、山田君。
配偶者お誕生日お祝い・山本君。

《第4回芋畑の草取り》 9月28日(日)

参加者：保田・楠本・郷間・市川・溝落・吉田・山本・中谷敬子・神谷・津川・中村・中村奥様・中板・和田・早田会員



《委員会報告》

*東南育英会委員長 平 平治

向陽高校より新規奨学生2名の推薦を受けております。委員会で検討し、決定いたします。

*会報委員会

ロータリーの友 10月号の地区だよりをを皆様のラックにいれさせて頂いております。ご一読下さい。

*社会奉仕委員長 早田充宏

10月17日(金)9:00～ 芋掘りの事前準備。

10月19日(日)9:00集合、10:00開始

芋掘りを行います。皆様のご参加、よろしくお願い申し上げます。

・一万人大清掃に今年も参加いたします。

11月9日(日)8:30～11:00 城北公園集合

皆様のご参加、よろしくお願い申し上げます。

幹事報告

溝落和作幹事

・9月28日(日)芋畑の草取りご苦労様でした。
(参加会員14名)

・(社)ガールスカウト日本連盟和歌山県支部より、ガールスカウト祭りの案内が届いておりますので回覧します。

・和歌山東RC創立50周年記念ゴルフの出欠表並びに東南ゴルフ同好会への参加出欠表を回覧しますのでご記入下さい。

	ニコニコ	米山奨学金	ローレ財団	東南育英会
累計	622,549	76,000	493,400	13,000

出席報告			出席者	出席率
会員総数	41名	10/1	31名	79.49%
出席免除会員	2名	9/17	36名	92.31%

**クラブフォーラム「東南育英会委員会」
外部卓話 向陽高等学校 奨学金担当 三崎貴美先生**

ただいま紹介にあずかりました向陽高校の奨学金担当の三崎です。よろしくお願いいいたします。本日は、いただきありがとうございます。奨学金について報告する機会を設けていただき、誠にありがとうございます。

平素より、東南ロータリークラブの方々には向陽高校の教育に、深いご理解とご支援を賜っておりまして、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

まず、いただきありがとうございます奨学金の概要ですが、月額1万円を給付していただいております。これは3ヶ月に1度お忙しい中、わざわざご来校いただき奨学生に直接手渡されます。その際には奨学生から近況や将来の進路についてご報告させていただきます。そして、それに対する様々なアドバイスや人生についての指針をお教えいただいております。これは奨学生にとっては、改めて自己の進路や学業について考えると同時に、同年代のものたちだけでは知り得ない、経験豊富な方々の思想に触れることのできる貴重な機会となっております。ありがとうございます。現在奨学金をいただいておりますのは、3年生1名、2年生2名の計3名で、今年も新たに2名の奨学生として推薦させていただく予定になっています。したがって毎年5名の生徒が東南育英会から奨学金を給付していただいております。

東南育英会の歴史は古く、1972年からとお伺いしています。本校生徒には1994年から奨学金を給付して下さっているとのことで、14年という非常に長い間ご支援いただきあらためて感謝申し上げる次第です。その間、最初は2名の奨学生でしたが、現在5名にまで人数枠を増やしていただいております。だいたい以上のようなことが概要ですが、在校生にとって東南育英会からの奨学金は自非常に希少価値のある大変ありがたい奨学金です。在校生を対象とした奨学金の数は非常に少なく、在校生を対象とした奨学金は「保護者が病気・交通事故で亡くなった場合の病気遺児・交通遺児を対象としたもの」あるいは和歌山県で設けている「県修学奨励貸与制度」しかありません。また、それらの奨学金はあくまで貸与であり、将来返還する必要があります。したがって、交通遺児でも病気遺児でもなく、さらに将来貸与された奨学金を返還するだけの経済保証もない生徒は、奨学金を受けたくても受けることができません。そんな中において、東南育英会の奨学金は、貸与ではなく給付であり、困窮を極めながらも学問に深く志を抱いている生徒に広く門戸を開いてくださっているのです、そういう生徒にとっては大変価値のあるものになっています。

さて、私が奨学金担当になりましたから今年で2年目ですので、本日お話をさせていただく内容も主にこの2年が中心になろうかと思っております。奨学金をいただいている家庭の事情を見てみますと、父親の病死や離婚など原因は様々ですが、経済的に厳しい母子家庭が多い傾向にあるようです。父親のいる家庭でも昨今は父親のリストラや自営業の行き詰まりなどが奨学金を申請する理由として見受けられます。現在、給付していただいている家庭はすべて母子家庭ですが、たいていの場合、母親の給料は家賃や光熱費、また他の兄弟の学費などといった生活費に消えてしまいます。したがって、奨学生の中には授業料の減免を受けた上で本人もアルバイトの許可を得て家計を支えているという状況の生徒もおります。また、別の生徒は兄が養護学校に在籍しており、介護が必要であるというような複雑な家庭環境を抱えていたりします。さらに母親の職業もパート勤務、派遣会社勤務といった不安定で収入も少ない職種のことが多く、年収100万前後のことが多いようです。また、離婚の原因がドメスティックバイオレンスであったり、母親が病弱で医療費がかさむのに定職に就くことができないといった場合もあります。そんな中において、どの生徒も成績優秀で生活態度もよく、真面目です。クラブ活動や勉学に意欲を燃やし、日々努力を続けています。大学進学を目標に頑張っていますが、夢をかなえるにはなかなか厳しい状況があります。最近では国公立大学でも入学金30万円、授業料60万円という具合に、初年度の学費に100万円ほどかかります。日々の生活費に収入のほとんどが消えていく中、これだけの金額を準備するには容易ではありません。もちろん、大学進学に向けての「大学予約」という形での奨学金もありますが、数はあまりなく、ほとんどが貸与で、給付ではありません。給付の奨学金があっても、給付対象者は県で数人という狭き門です。貸与して下さる奨学金ももちろん申請はしますが、先ほど述べた学費のほんの一部にしか成りませんし、将来返すということを考えるといくつも奨学金を借りるといってもいけません。このように家庭での経済状態が苦しく、進学のための費用も高いということから、成績が優秀で他府県への大学進学を希望しているのに、下宿や電車通学は費用がかかるということで断念せざるを得ないという場合もあります。どの大学に進学するかという進路の選択の幅が、経済事情の苦しさという現実のために狭められてしまうのです。昨年まで東南育英会の奨学金をいただき、ただいま浪人している者も、県立和歌山医科大学看護学科への合格を目指して受験勉強に励んでおります。病弱で働けない母に代わり、アルバイトをし、家計を助けながら学費を貯めるという極めて厳しい生活を送っています。また、在学中も、家計を助けるためアルバイトをし、皆様からいただいた奨学金には手をつけずに大学進学にそなえて貯金しているそうです。皆様からいただいた奨学金の使い途としては、このように大学進学のために貯金をしているという場合もありますし、通信講座などの学習のための費用に充てる場合もあるようです。

このように奨学金を頂いている生徒たちは「お金のありがたみ」を十分分かっている生徒たちです。皆さまに出していただいている奨学金も「皆様がどのような気持ちで出してお下さっているか」ということに思いを致し、「いただきのお金が皆様の大変なご苦勞の賜物である」ということを十分理解しております。どの奨学生も「奨学金のありがたさが身にしみる」と言います。そのせいでしょうか、奨学生たちの将来の進路やかなえたい夢は「人の役に立つ仕事に就いて社会に貢献すること」という共通点があります。ツアーコンダクター、医療従事者、看護師、医者、教師、法学部などを目指しています。そして、その目標を実現し、それぞれが皆様方に受けたご恩を何らかの形で社会にお返しできれば…と願っております。夢をかなえるために、日々たゆまぬ努力を続け、どの奨学生も優秀な成績を収めています。さらにしっかり勉学に励み、自分にできることで社会に還元していきたいと申しております。彼らには無限の可能性がおります。私はその彼らに無限の可能性を経済的な事情によって挫折させることなく、何とか開かせることができると願っております。皆様には奨学生の置かれた厳しい現状に対し、深いご理解とご温情を賜りまして感謝の念に堪えません。未来ある若者がしっかりと実力を発揮し、大きく飛躍していけますよう、今後ともご支援いただけますようよろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、以上で私からの奨学金に対するご報告を終わらせて頂きます。